

2026 年 6 月 30 日

学校法人三幸学園
福岡医療秘書福祉&IT 専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 糸山 龍介

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①徳丸 秋桜 （学校法人三幸学園 飛鳥未来きぼう高等学校 福岡博多キャンパス キャンパス長）
- ②糸山 龍介 （医療法人社団廣徳会 岡部病院 総務部採用課課長）
- ③井上 慎 （社会医療法人大成会 福岡記念病院 診療情報管理士科 2014 年度卒業生）
- ④小金丸 誠 （社会福祉法人さわら福祉会 特別養護老人ホームマナハウス 施設長）
- ⑤松尾 美佳 （株式会社ツクイ ツクイ福岡 介護福祉科 2023 年度卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 16 日（会場 福岡医療秘書福祉&IT 専門学校 302 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書福祉&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慎也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 糸山 龍介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学園の教育目標や育成人材について統一した認識のもと、医療業界や保育・介護業界のニーズを把握し、社会に必要とされる学校の実現に向けた取り組みを実施した。

【取り組み】

- ・教員が積極的に現場へ足を運び、現場のニーズを把握した上で、その内容を学生へ還元できるように、教育課程に反映した。具体策の一つとして、教員の業界理解を促進する為に短期間のインターンシップや施設や病院見学を取り入れ、教育内容の充実を図った。
- ・相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける学生の育成（「技能と心の調和」の浸透に向けた取り組み）。
- ・検定合格率の向上、退学者数の低減を目指し、タイムリーかつ学生の理解と納得が得られる教育を目指す。

【振り返り】

- ・目的を意識させる授業展開や、現場での実例を取り入れることで、学生が実際の業務内容を具体的にイメージしやすいような授業内容の提供を、引き続き実施していく。
- ・現場訪問の充実に向けて取り組んだものの、十分とは言えなかった。引き続き、医療現場への訪問を強化し、教育内容のさらなる充実につなげていく。
- ・挨拶等を自らできる学生が増えた。引き続き「技能と心の調和」を掲げ、自ら考え行動できる学生の育成を行っていく。
- ・検定合格率の向上についてはすべての検定では目標を達成できなかったため、引き続き重点的課題として取り組んでいく。
- ・学生間のモチベーションの差による授業意欲の低下が見られたため、引き続き規律遵守を徹底する。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・三幸学園の学生は、実習時や学校内で挨拶ができており、心の教育がなされていると感じる。現場でも、まず人間力が求められるため、「自分がされて嫌なことは人にしない」等、相手の立場に立ち考えることができる人材を求めている。：小金丸委員（介護福祉科について）
- ・学校の理念である「技能と心の調和」の実現に向け、実習後の振り返りにおいても、学生が学んだ技術面だけでなく、自身の人間力としての強みや課題にも気づける振り返りができるような取り組みを実施していく。：西川主任（介護福祉科について）

- ・在学中にコミュニケーション能力、自立心について学べたことが、現場で活かされている。一人ひとりに合わせたコミュニケーションは教科書だけでなく、普段の学校生活から学ぶことができ、自立心については、実習を通して患者様の意思を尊重する姿勢を学ぶことができた。井上委員（診療情報管理士科について）
- ・在学中に臨機応変に対応する力を身につけることえ、現場でも活かすことができると感じる。：糸山委員（診療情報管理士科について）
- ・引き続き、学生が目的を主体的に考えられる授業展開や、学習内容の工夫や改善を継続していく。：岡本主任（診療情報管理士科について）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

（評価項目）（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・社会経済のニーズ等をいち早くキャッチし学生へ伝えることが必要である。
- ・社会のニーズを踏まえたカリキュラムの運営方法について検討を進める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・変化する業界のニーズを把握するために、実習巡回や卒業生訪問時に学生をご指導いただく現場担当者へのヒアリングを積極的に実施し、学校行事等に出席いただいた際には直接ご意見をいただく機会を設ける。
- ・実習巡回や卒業生訪問を強化し、現場からのご意見をいただくことで、現場が求める教員の資質についての理解及び指導を深める。

③ 特記事項

（診療情報管理士科）

- ・2026 年度からコース選択制を導入する。1 年次前期の共通授業で医療・薬業に関する基礎科目を学び、1 年次後期からは自分の適性を把握した上でコース選択ができることで将来の進路選択の幅が広がる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・三幸学園の教育方針と医療機関が求める人材像は合致している。実際に、院内行事等において卒業生が自主的・主体的に職員を牽引する場面が見られた。そのため、主体性やリーダーシップを育成する学内行事は、引き続き実施することが必要であると考えられる。：糸山委員（診療情報管理士科について）
- ・在学中の学びの会や学級委員活動、グループワークなどを通じて、クラス全体で協力しながら物事を作り上げる経験が重要であったと改めて感じている。：松尾委員（介護福祉科について）

(2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・業務の効率化の為、紙ベースで実施していたものを Google フォームに変更するなど業務の削減・効率化を図っている段階である。

② 今後の改善方策

・更なる情報システム化等による業務の効率化及びペーパーレス化を進めていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校では ICT 端末を積極的に利用しているため、紙ベースで用意するものはほとんどない状況である。：徳丸委員

・介護現場での ICT 化については、利用者様への請求書をデジタル化したことで業務効率が向上した。また、勤怠管理や議事録、報告書等のデジタル化により業務改善が進み、職員一人ひとりの負担軽減につながっていると感じる。：小金丸委員（介護福祉科について）

・病院では今後、システムを一新し、ペーパーレス化を推進していく予定である。業務改善の取り組みとして、AI を活用した議事録作成やカルテ作成支援システムを導入しており、最終的な確認は職員が行うものの、業務の効率化と負担軽減が進んでいる。：井上委員（診療情報管理士科について）

・訪問介護の現場では、利用者様の記録のデジタル化が進む一方で、職員・利用者様ともにペーパーレス化への抵抗感も見られる。また、オンデマンド研修への移行に伴い、ログイン操作に苦慮する職員も見受けられる。導入に関しては職員への説明や研修が必要である。：松尾委員（介護福祉科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・学科編成に伴い、さらにキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム編成(実習含む)が必要である。

② 今後の改善方策

・さらにキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム編成について継続的に検討する。

③ 特記事項

・授業アンケートや学校生活アンケートに対し、全体での振り返り後に学科ごとでも振り返りを実施している。学科単位での課題を整理し、解決策や改善点を教員全体で共有して取り組んでいる。

（介護福祉科）

・使用テキストの改訂に伴い、カリキュラム全体の見直しを行い、教員及び講師へ周知した。

・産学連携を強化し、福岡市認知症フレンドリーセンター・博多区地域保健福祉課・就労支援施設・訪問介護事業所・看取り介護士の講義を受講するなど、企業連携を強化している。さらに、認知症当事者の方との交流会など、対象となられる方との触れ合いも大切にし、授業に取り入れるよう工夫している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高齢化が進む中、訪問介護の現場ではヘルパーを目指す人材の増加が期待されている。施設の現場においても、看取りなど専門の介護分野に関心を持つ学生の実在は良い刺激となっている。施設として今後も学校との連携・協力を継続していきたい。また、新卒者が現場で活躍するためには、「訪問介護が好き」「看取りケアに興味がある」などの専門性や自分の強みを持つことが重要である。それが在学中に見つけられるといいのではないかと考える。：小金丸委員（介護福祉科について）

・実習生の受け入れに際しては、まず病院の概要説明や施設案内を実施し、担当者を配置することにより、緊張をできるだけ和らげた状態で見学できるよう配慮している。：糸山委員（診療情報管理士科について）

・病院への見学や説明を通じて学生のモチベーション向上につながるよう工夫しているが、実際にどのような内容が学生の意欲向上につながるのかを把握したい。また、学生が見学時に具体的に確認したい事項について、事前に共有してもらえると、案内内容をより充実させることができる。：井上委員（診療情報管理士科について）

・学生が見学時に具体的に確認したい事項についての情報共有を、今後に向けて速やかに取り組んでいきたい。：岡本主任（診療情報管理士科について）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業生の卒業後の状況を把握する方法を増やし、教育活動へ活用する仕組みの構築が必要である。
- ・資格取得率の向上に向けた取り組みを強化する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・卒業生の卒業後の社会的評価の把握について、客観的に確認できるツールの作成や情報共有を行う。
- ・検定対策授業を担当する講師だけではなく学校全体で、学生の資格試験に対するモチベーションアップを図る。
- ・検定日までの期間の宿題等を調整し、授業中の時間を有効に活用した検定対策を実施する。

③ 特記事項

- ・検定取得に向けた「試験対策 WEEK」の活用等により、学校全体で資格取得率が向上した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業後に、学校を訪問したい気持ちがあっても、明確なきっかけや目的がないと訪問しづらく、社会人になってから休日に気軽に学校へ足を運ぶことへの心理的なハードルがある。卒業生へ訪問を促す内容で SNS 等を活用した発信を行うなど、何らかの訪問のきっかけがあれば、連絡や訪問がしやすいのではないかと考える。：松尾委員（介護福祉科について）

・現場としては常に人材確保が課題となっており、経営上の最重要課題である。そのため、新卒に限らず卒業生に

も求人情報を提供・展開してもらえると現場として大変ありがたい。：小金丸委員（介護福祉科について）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・卒業生への就職支援体制を強化する必要がある。

② 今後の改善方策

・学校 HP 上にある卒業生向けのページを活用し、中途採用の求人情報を掲載することで卒業後の就職支援体制を強化する。

③ 特記事項

・学生に対し就職先への理解促進のため、施設種別ごとの就職ガイダンスを実施し、業界内就職につながった。
 ・同窓会を実施することで、卒業後の活躍や悩みをヒアリングし、相談を受ける機会を設けた。
 ・姉妹校の高校においての授業で医療業界を説明しにいきキャリア教育・職業教育を行っている。

（介護福祉科）

・職業訓練生の受け入れに向け、事前オリエンテーション等の実施を行い教育体制の整備を進めた。
 ・教育訓練給付金の周知を強化するため、来校者への案内や SNS での情報発信を行い、社会人にとって学びやすい環境整備に取り組んだ。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

・防災マニュアルを年度初めに全クラスへ周知するとともに、掲示板に掲載し、いつでも確認できる状態にしている。

（介護福祉科）

・2026 年度より実習支援システムを導入し、実習施設と学校、学生の三者がシステム上で学生情報や実習記録の記入や指導ができるように整備した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集活動において、教育成果を正確に分かりやすく伝えていく必要がある。

② 今後の改善方策

学生募集活動において、高校1年～2年生など早期から教育成果を正確に分かりやすく伝え、進路選択に役立つ情報発信を行う。

③ 特記事項

・留学生の入学者数が増加した。引き続き積極的に広報活動に取り組んでいく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・介護の現場では外国籍の職員が徐々に増加しているが、向上心が高く、夜勤等にも積極的に従事しており、利用者様との関係も良好である。貴学の留学生も卒業後、介護の現場で活躍している。：小金丸委員（介護福祉科について）

・小学生と中学生では介護に対するイメージが異なり、中学2年生以降になると、様々な情報に触れて「大変そう」「きつそう」といった印象が強くなる傾向が見られる。その為、福岡市および福岡県老人福祉施設協議会において、小学生に介護の仕事体験会を実施予定しており、介護に対して前向きなイメージを持ってもらうきっかけづくりを進めている。：小金丸委員（介護福祉科について）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第2.0版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について継続して徹底していく必要がある。
- ・SNS の発信内容には十分留意する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・現時点でコンプライアンス上の問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行い、教職員の意識向上に努める。

③ 特記事項

- ・年度初めに全職員を対象としたコンプライアンス研修を実施した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・病院でも情報発信の一環として SNS を活用した情報発信にも力を入れ始めている。：糸山委員（診療情報管理士科について）
- ・現場では記録入力など業務上必要な時以外の用途では、個人の携帯電話は使用しないことになっている。車椅子にも氏名が表示されているなど、さまざまな場面に個人情報が含まれている可能性があるため、個人情報の取り扱いについては特に留意して対応している。：松尾委員（介護福祉科について）
- ・学校においては、携帯電話で撮った写真をメモ代わりに活用する学生も見られるため、実習等においては引き続き注意喚起を徹底していく。：岡本主任（診療情報管理士科について）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・ボランティアの機会の創出と学生への告知の強化を図る必要がある。

② 今後の改善方策

・随時ボランティア情報を学生に掲示できるように SANKOGAET(学内情報伝達用アプリ)を活用し、内容を周知していく。

③ 特記事項

(介護福祉科)

・ボランティアの募集については、案内スペースに掲示するとともに、学生に口頭で説明。ボランティア毎に担当教員を決めることで、申し込みから終了後の報告書まで一貫して指導を行うことが出できた。

コロナ禍において中学・高校の間に学外活動の制限を受けた年代の学生であることから、様々なボランティアに興味を持つ学生が多い傾向にある。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・介護人材育成を担う養成校として、今後も可能な限り学校に協力していきたい。(小金丸委員)

・学生への指導については、1日の指導のみで意識が大きく変わるものではなく、日頃からの帰属意識の醸成や日頃の積み重ね、教員や学生同士の関わりを通じた学びが重要である。(徳丸委員)

・今後も現場に足を運び、業界が求めるニーズを的確に把握し、相手の要望を理解した上で自ら考え行動できる学生の育成を継続していきたい。(岡本主任)